

「城東地区人権啓発推進協議会視察研修」に参加して



● 城東地区 ●
1892 世帯
男 1746 人
女 1846 人
合計 3592 人
前月比 -28 人
R 2.9.1 現在

今年 7 月 6 日 (月) に、城東地区の町会長、公民館長、民生児童委員の皆さん、総勢 21 名が参加し、山梨県清里のポール・ラッシュ記念館を視察してきました。

新型コロナウイルス感染予防で、県外移動自粛が解除後最初のバス研修なので、3 密対策でなるべくバス内の席を離したり、窓の上部を少し開けて換気したりして、注意しながら出発しました。

心配していた雨は、初めは小降りでしたが、目的地が近づくころから本降りになり、ポール・ラッシュ記念館近くのバスの駐車場から玄関までの坂道は道路に雨水が流れて靴がびしょ濡れになりました。

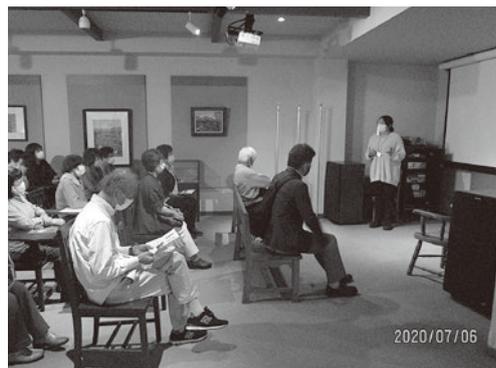
記念館の玄関ホールで公益財団法人キープ協会の職員さんに迎えられ、館内を一時間以上かけて案内していただきました。ポール・ラッシュさんは、

アメリカ合衆国ケンタッキー州出身の牧師で、親日家として知られ、日本に多くの業績を残しています。



1925 年に関東大震災後の日本のキリスト教青年会の拠点を立て直すために来日、聖路加国際病院の建設募金活動を行ったほか、山間高冷地で米作に適さなかった清里高原 (山梨県北杜市) での酪農、西洋野菜の栽培促進による開拓支援を行ったようです。

また、立教大学の教授として、経済学や英語の教育を行うとともに、アメリカンフットボールの日本での普及に尽力したとのことでした。



立教大学在学中の 1934 年に東京学生アメリカンフットボール連盟を設立し、1961 年には日本アメリカンフットボール協会から「日本アメリカンフットボールの父」の称号をいただいたそうです。アメリカンフットボールの

歴史やヘルメットやボールやユニホームの展示は勿論、大型トラクターをはじめとする当時使っていた農耕用具など、様々な展示物が所狭しと置いてありました。(展示物が飾りきれなくてプライベートルームには、色々な品物が置かれて展示してありました)



ベッドルームの窓からは晴れた日は富士山が見えるとのことでしたが、あいにくの雨で見ることができず、ベッドの上には窓から見える美しい富士山の写真がありました。

ポール・ラッシュ記念館の見学後、清泉寮新館で昼食、広いレストランに間隔をあけて、スプーンとフォークがセッティングされていたの

で、いつもの団体混雑昼食とは違うようだと思ってみましたが、内容は、スープとサラダとカレーライスとデザートでした。

雨もやまず、濃霧にもみまわれたので、清泉寮でお土産を買って、途中、小淵沢の道の駅に寄っただけで、早々に帰松しました。松本市内は雨もあがり晴れ間も見えていました。

帰りはバスの窓も閉め、隣同士が近寄って話もして、お菓子や飴が車内を回って、新型コロナウイルス感染予防に悪いことだらけでしたが、あれから二週間以上経過した今、参加者が感染した様子はありません。一安心です。

日本中で新型コロナウイルスの陽性者が大変増加しています。今後もしばらく続くと思われ、特に高齢者は重症になりやすいと言われています。自分だけでなく周りの人に大変迷惑をかけるので、皆さん気をつけて生活しましょう。



(百瀬)

防災倉庫および物置整理実施

7月4日早朝より曙町内会では衛生部及び防災部合同事業として2箇所の防災倉庫および1箇所の物置の整理を実施しました。最近自然災害が多発し甚大な被害が発生していることから町内の防災用品、備品は十分に整っているかの確認と倉庫内の掃除および整理を目的に実施しました。

当日は天気も良く町会長はじめ各役員と組長を含め十数人の参加があり2時間くらいの予定で始まりました。ところどころでまず倉庫の鍵のある場所を知らない、開け方がわからない人が多くいることにびっくり、いざという時



に防災倉庫を開けることが出来ない状況でしたので、まずは鍵の保管場所、開け方の確認からのスタートでした。その後倉庫内にあるものをすべて庫外に出し倉庫内の掃除後、防災倉庫に保管されていた物を必要なものと不要なものに選別し戻すこととしました。必要なものであっても有効期限が経過していないかを確認、期限の切れているものは廃却処分としました。期限切れの物の中に水、ガスボンベ、消火器、固くなったセメント、賞味期限の切れた食品がありました。消火ポンプはあるが燃料がない、ホース不良、ポンプ作動不良といった状況で使い物にならない消火設備もありこれらも廃棄処分としました。テントは2種類



3セットありましたが一部は部会の会員しか組み立てることができないことが分かり次回の町内防災訓練ではテントの張り方の勉強会を予定することとしました。驚いたことには担架が2セットあったことです。参加された方にお聞きしたところ「あることは知っていたがどこにあるか知らなかった」ということでした。よい機会なので担架の組立てに挑戦し始めましたが、「布」はあるが「ポールがない」と探し回る始末で、少々時間はかかりましたが担架を組み立てることができました。思いがけず倉庫整理と防災訓練もでき一石二鳥ではなかったかと思っています。しかし担架だと人を運ぶには重量があり長距離移動は無理ではないかという意見があり車椅子の購入や、資材運搬用の一輪車、スコップなどの購入を検討することとしました。前任の防災部長が簡易トイレの購入をしてくださり倉庫に入っていましたことには感謝の限りでした。

備品のリスト化、誰が見ても倉庫内に何がどれだけ保管されているか分かるようにすること、また棚に名板を付けたり、保管箱には内容物、個

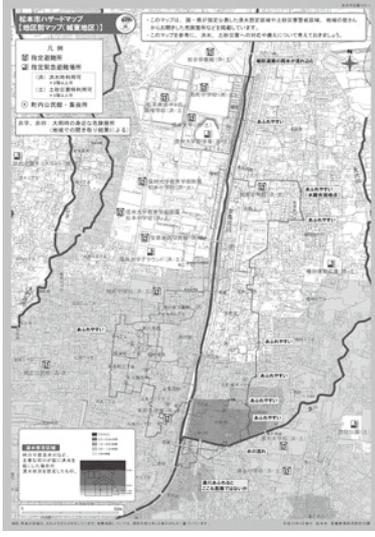
数を記入し置き場の見える化を進めることとしました。また防災倉庫の点検整理を最低でも3年サイクルで行い期限切れの食品、乾電池切れの点検等が必要ではないかと思えます。

災害は雨、風、地震と様々です。すべての災害に対応できる備品を準備することは難しいと思われませんが、少しでも町内の方々が安心安全に生活できるように今後も準備を進める必要性を痛感しました。

(金子)

ハザードマップについて

近年は水害が多く、主に九州や西日本を中心に被害を及ぼした7月の豪雨災害が記憶に新しいところです。長野県では昨年10月の台風19号により千曲川流域で大きな水害が発生しています。



現在の様子からは想像し難いですが、女鳥羽川も昭和34年8月に大きな氾濫があったそうです。その後、河川改修工事が進められ水害は減ってきています。

しかし、改めて松本市の防災マップを見ると城東地区でも女鳥羽川の東側や湯川流域で浸水が想定されています。さらに城東地区のハザードマップでは、家のすぐ近所に溢れやすい水路が有ることが表示されていて、避難する場合に経路に注意が必要に分かり、改めて事前にハザードマップを見て情報を知っておくことが大事だということが実感できました。

秋は台風が多く発生します。ハザードマップは全戸配布されたそうなので、この機会に再確認してみたいかがでしょうか。手元にない場合は、市役所や市のホームページでも見ることが出来ますので、今一度みなさんもご確認いただき、日頃から防災意識を高めていきましょう。

(小島)